



平成27年12月期  
〈1～12月〉

## 連結決算補足資料

平成28年2月12日

**コクヨ株式会社**

(コード番号 7984)

経営管理本部 財務経理部

お問い合わせ先 : 統括部長 永井 琢也

TEL : 06-6976-1221(大代表)

URL : <http://www.kokuyo.co.jp/>

# も く じ

1. 損益計算書の状況	
1-1 連結情報	…… P. 1
1-2 売上高	…… P. 2
1-3 売上総利益	…… P. 3
1-4 販売費及び一般管理費	…… P. 4
1-5 営業利益及び経常利益	…… P. 5
1-6 当期純利益	…… P. 6
2. 貸借対照表の状況	…… P. 7
3. キャッシュフロー・設備投資の状況	…… P. 8
4. 株主還元	…… P. 9
5. 事業セグメントの損益状況	
5-1 ステーションナリー関連事業	…… P.10
5-2 ファニチャー関連事業	…… P.11
5-3 通販・小売関連事業	…… P.12
6. 28年12月期の見通し	
6-1 連結業績の見通しについて	…… P.13
6-2 連結業績の推移	…… P.14
6-3 セグメント別業績の推移	…… P.15
7. 主なトピックス	…… P.16

(注)この資料に記述されている予想数値は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

# 1. 損益計算書の状況

## ◆1-1 連結情報

4期連続の増収、6期連続の営業利益増益を達成しました。

売上高は、国内でのオフィス家具販売が引き続き好調に推移するとともに、海外事業も伸長し、前年同期比3.8%増の3,042億円となりました。

営業利益は、増収に伴う売上総利益の増加やファニチャー関連事業の売上総利益率の改善により、前年同期比46.1%増の111億円となりました。また、経常利益は為替差益の減少があったものの、前年同期比23.2%増の118億円、当期純利益は特別損益(特別利益14億円、特別損失25億円)の計上等により、前年同期比24.6%増の63億円となりました。

(単位:百万円)

	26年12月期	27年12月期	前年差額 (前年率差)	増減率
売上高	293,054	304,276	+11,222	+3.8%
売上総利益 (率)	96,450 (32.9%)	101,009 (33.2%)	+4,559 (+0.3p)	+4.7%
販売費及び一般管理費 (率)	88,851 (30.3%)	89,906 (29.5%)	+1,055 (△0.8p)	+1.2%
営業利益 (率)	7,598 (2.6%)	11,102 (3.6%)	+3,504 (+1.1p)	+46.1%
経常利益 (率)	9,643 (3.3%)	11,880 (3.9%)	+2,237 (+0.6p)	+23.2%
当期純利益 (率)	5,065 (1.7%)	6,312 (2.1%)	+1,247 (+0.3p)	+24.6%

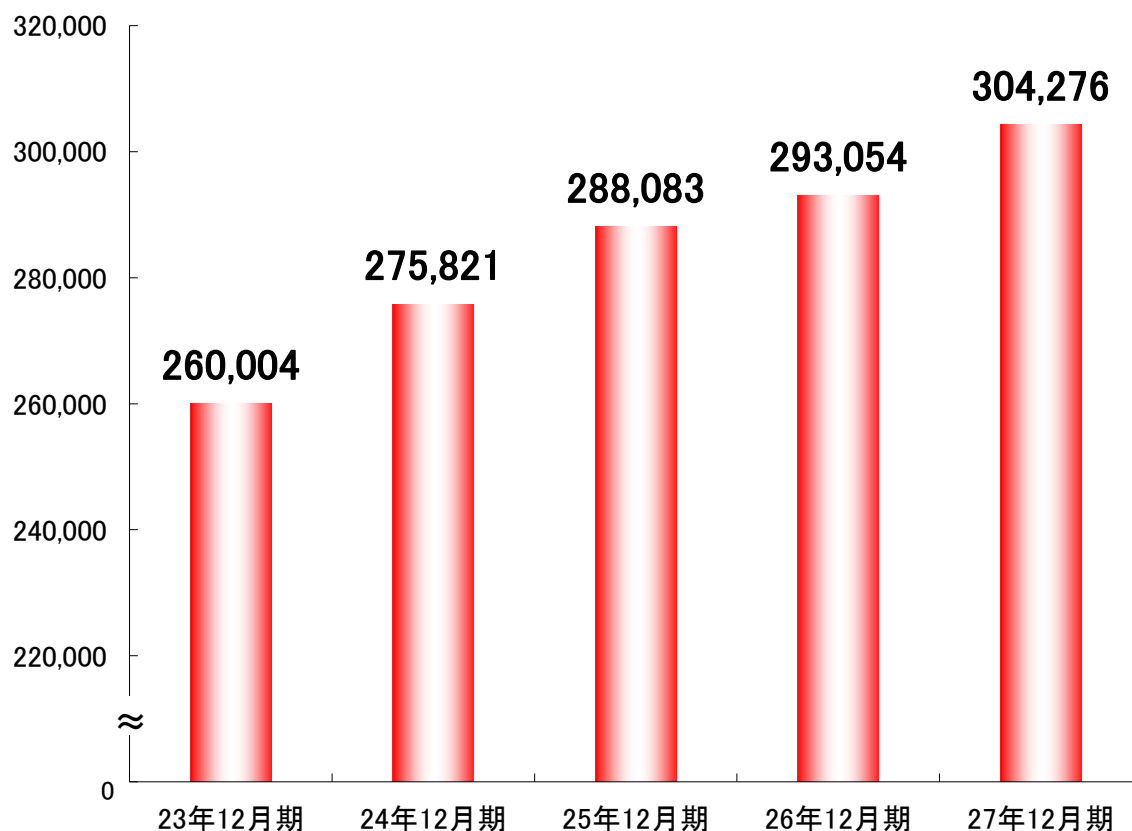
(注)連結子会社20社・持分法適用関連会社1社

# 1. 損益計算書の状況

## ◆1-2 売上高

売上高は、国内でのオフィス家具販売が引き続き好調に推移するとともに、海外事業も伸長し、前年同期比3.8%増の3,042億円となりました。

(単位:百万円)



(単位:百万円)

	23年12月期	24年12月期	25年12月期	26年12月期	27年12月期	前年差額 (前年率差)	増減率
売上高	260,004	275,821	288,083	293,054	304,276	+11,222	+3.8%
売上総利益 (率)	86,659 (33.3%)	89,219 (32.3%)	93,408 (32.4%)	96,450 (32.9%)	101,009 (33.2%)	+4,559 (+0.3p)	+4.7%
販売費及び一般管理費 (率)	82,587 (31.8%)	84,366 (30.6%)	86,981 (30.2%)	88,851 (30.3%)	89,906 (29.5%)	+1,055 (△0.8p)	+1.2%
営業利益 (率)	4,072 (1.6%)	4,852 (1.8%)	6,426 (2.2%)	7,598 (2.6%)	11,102 (3.6%)	+3,504 (+1.1p)	+46.1%
経常利益 (率)	4,098 (1.6%)	6,142 (2.2%)	8,276 (2.9%)	9,643 (3.3%)	11,880 (3.9%)	+2,237 (+0.6p)	+23.2%
当期純利益 (率)	△5,460 (△2.1%)	2,428 (0.9%)	4,804 (1.7%)	5,065 (1.7%)	6,312 (2.1%)	+1,247 (+0.3p)	+24.6%

# 1. 損益計算書の状況

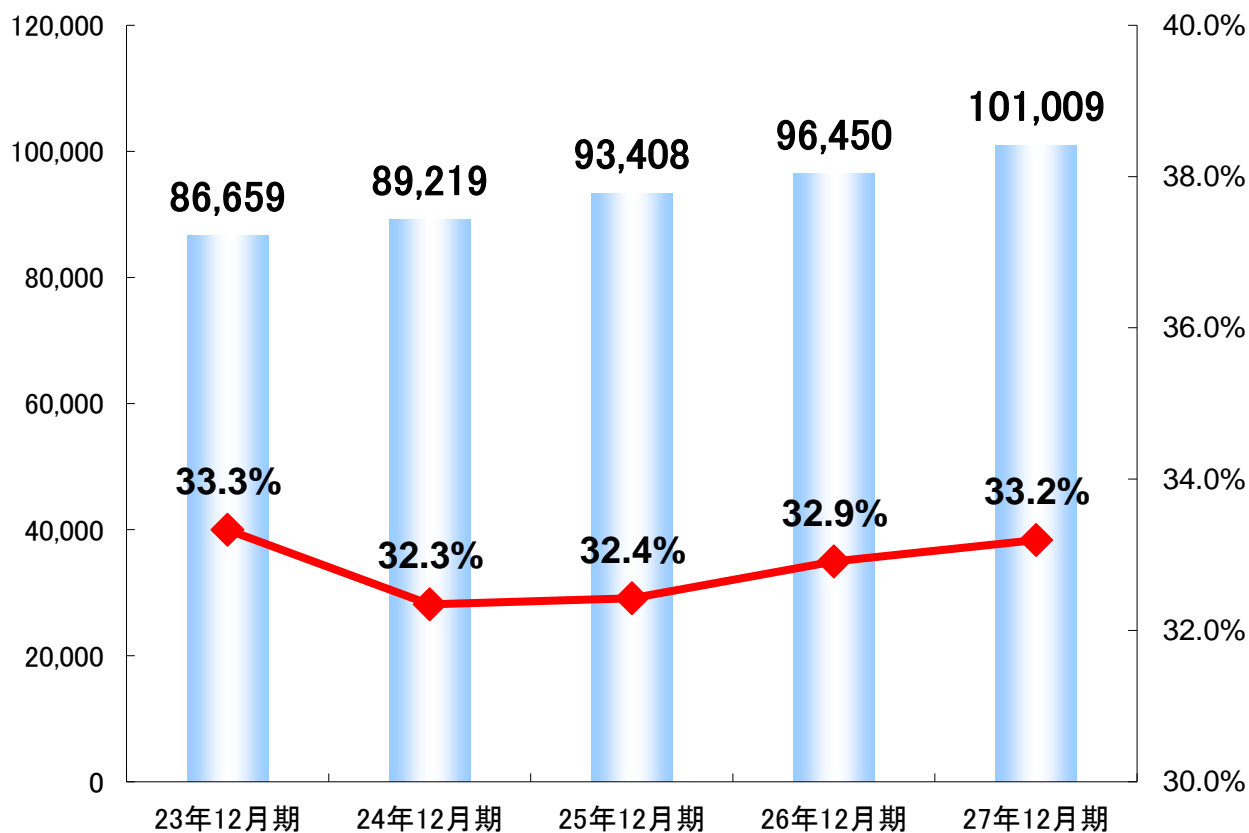
## ◆1-3 売上総利益

売上総利益は、増収やファニチャー関連事業の売上総利益率の改善により、前年同期比4.7%増の1,010億円となりました。

売上総利益率は、円安の進行に伴う原材料価格及び仕入商品価格の高騰による原価の上昇がありましたが、価格改定の浸透及びコストダウンの推進に努めた結果、33.2%となりました。

(単位:百万円)

■ 売上総利益      ◆ 売上総利益率



(単位:百万円)

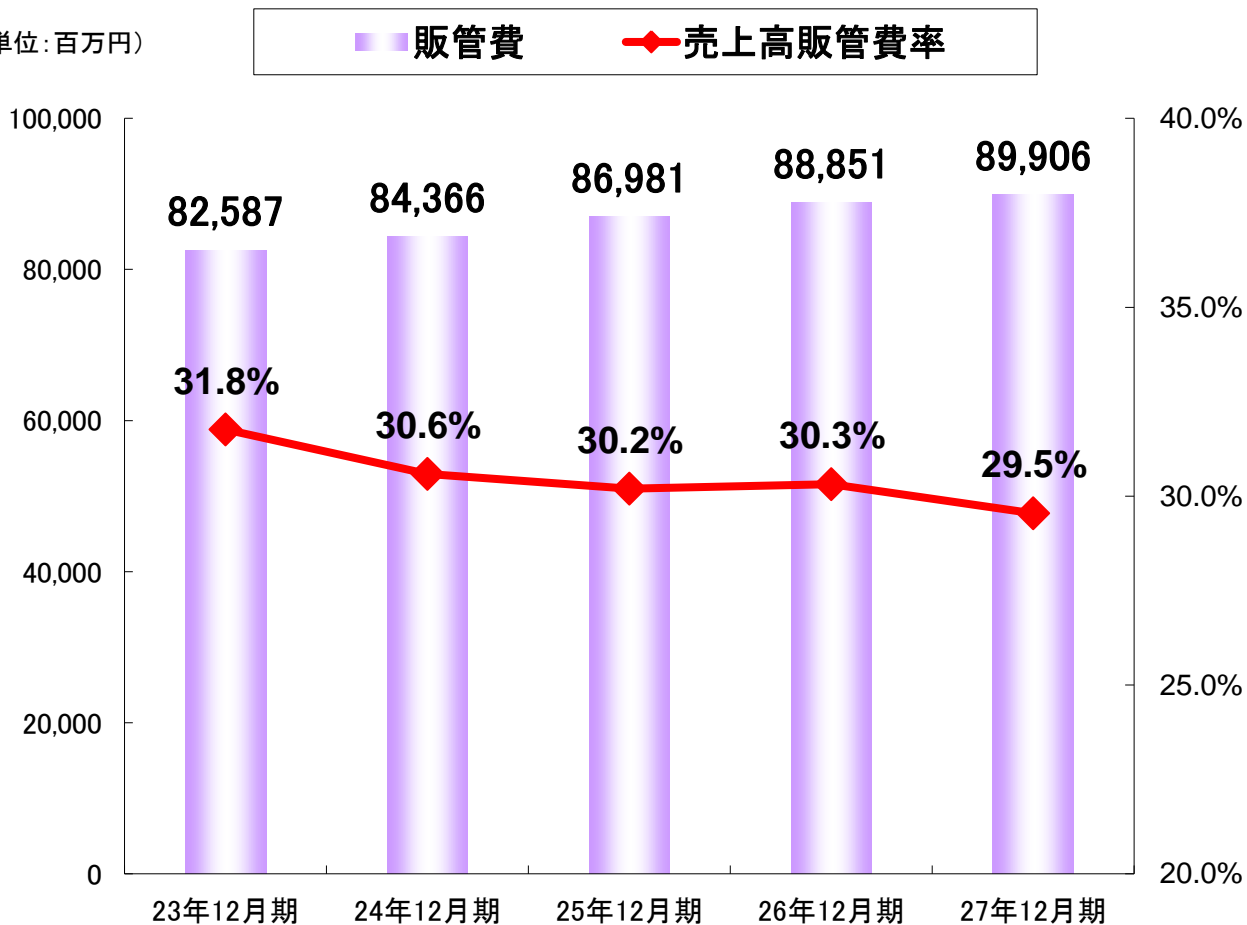
	23年12月期	24年12月期	25年12月期	26年12月期	27年12月期	前年差額 (前年率差)	増減率
売上高	260,004	275,821	288,083	293,054	304,276	+11,222	+3.8%
売上総利益 (率)	86,659 (33.3%)	89,219 (32.3%)	93,408 (32.4%)	96,450 (32.9%)	101,009 (33.2%)	+4,559 (+0.3p)	+4.7%
販売費及び一般管理費 (率)	82,587 (31.8%)	84,366 (30.6%)	86,981 (30.2%)	88,851 (30.3%)	89,906 (29.5%)	+1,055 (△0.8p)	+1.2%
営業利益 (率)	4,072 (1.6%)	4,852 (1.8%)	6,426 (2.2%)	7,598 (2.6%)	11,102 (3.6%)	+3,504 (+1.1p)	+46.1%
経常利益 (率)	4,098 (1.6%)	6,142 (2.2%)	8,276 (2.9%)	9,643 (3.3%)	11,880 (3.9%)	+2,237 (+0.6p)	+23.2%
当期純利益 (率)	△5,460 (△2.1%)	2,428 (0.9%)	4,804 (1.7%)	5,065 (1.7%)	6,312 (2.1%)	+1,247 (+0.3p)	+24.6%

# 1. 損益計算書の状況

## ◆1-4 販売費及び一般管理費

販売費及び一般管理費は、物流費は増加しましたが、固定費の増加抑制に努めたことから、前年同期比1.2%増の899億円となり、売上高販管費率は29.5%となりました。

(単位:百万円)



(単位:百万円)

	23年12月期	24年12月期	25年12月期	26年12月期	27年12月期	前年差額 (前年率差)	増減率
売上高	260,004	275,821	288,083	293,054	304,276	+11,222	+3.8%
売上総利益 (率)	86,659 (33.3%)	89,219 (32.3%)	93,408 (32.4%)	96,450 (32.9%)	101,009 (33.2%)	+4,559 (+0.3p)	+4.7%
販売費及び一般管理費 (率)	82,587 (31.8%)	84,366 (30.6%)	86,981 (30.2%)	88,851 (30.3%)	89,906 (29.5%)	+1,055 (△0.8p)	+1.2%
営業利益 (率)	4,072 (1.6%)	4,852 (1.8%)	6,426 (2.2%)	7,598 (2.6%)	11,102 (3.6%)	+3,504 (+1.1p)	+46.1%
経常利益 (率)	4,098 (1.6%)	6,142 (2.2%)	8,276 (2.9%)	9,643 (3.3%)	11,880 (3.9%)	+2,237 (+0.6p)	+23.2%
当期純利益 (率)	△5,460 (△2.1%)	2,428 (0.9%)	4,804 (1.7%)	5,065 (1.7%)	6,312 (2.1%)	+1,247 (+0.3p)	+24.6%

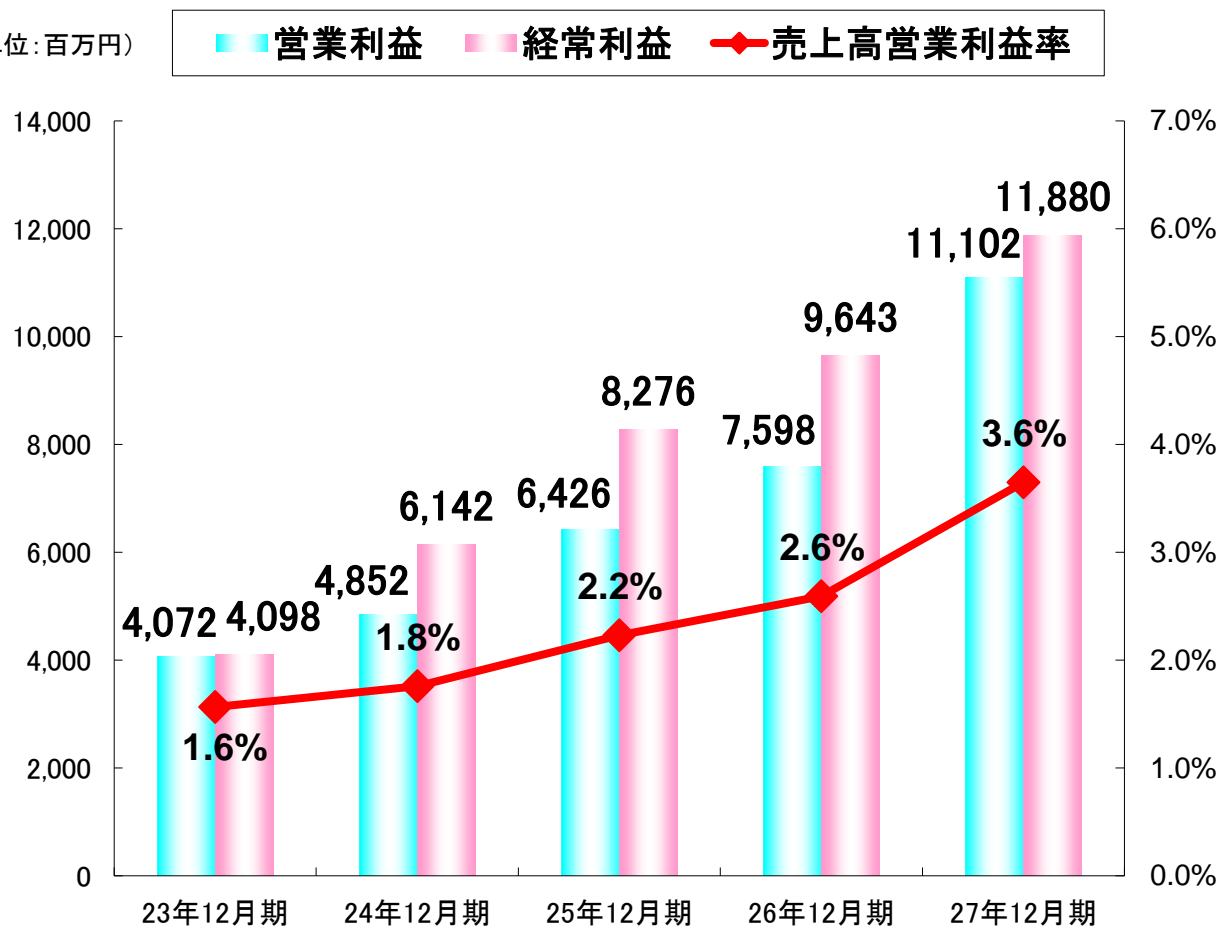
# 1. 損益計算書の状況

## ◆1-5 営業利益及び経常利益

営業利益は、増収に伴う売上総利益の増加やファニチャー関連事業の売上総利益率の改善により、前年同期比46.1%増の111億円となりました。

経常利益は、為替差益の減少があったものの、前年同期比23.2%増の118億円となりました。

(単位:百万円)



(単位:百万円)

	23年12月期	24年12月期	25年12月期	26年12月期	27年12月期	前年差額 (前年率差)	増減率
売上高	260,004	275,821	288,083	293,054	304,276	+11,222	+3.8%
売上総利益 (率)	86,659 (33.3%)	89,219 (32.3%)	93,408 (32.4%)	96,450 (32.9%)	101,009 (33.2%)	+4,559 (+0.3p)	+4.7%
販売費及び一般管理費 (率)	82,587 (31.8%)	84,366 (30.6%)	86,981 (30.2%)	88,851 (30.3%)	89,906 (29.5%)	+1,055 (△0.8p)	+1.2%
営業利益 (率)	4,072 (1.6%)	4,852 (1.8%)	6,426 (2.2%)	7,598 (2.6%)	11,102 (3.6%)	+3,504 (+1.1p)	+46.1%
経常利益 (率)	4,098 (1.6%)	6,142 (2.2%)	8,276 (2.9%)	9,643 (3.3%)	11,880 (3.9%)	+2,237 (+0.6p)	+23.2%
当期純利益 (率)	△5,460 (△2.1%)	2,428 (0.9%)	4,804 (1.7%)	5,065 (1.7%)	6,312 (2.1%)	+1,247 (+0.3p)	+24.6%

# 1. 損益計算書の状況

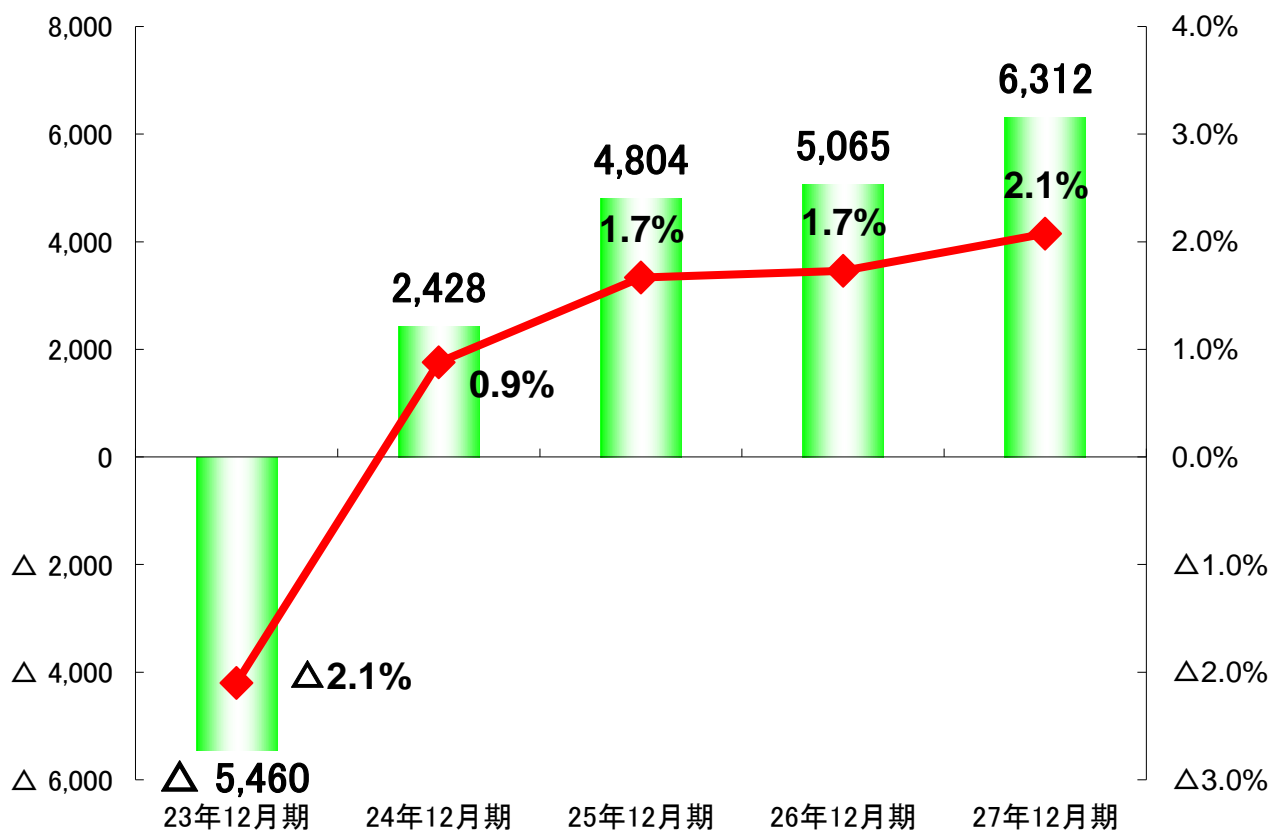
## ◆1-6 当期純利益

当期純利益は特別損益の計上等により、前年同期比24.6%増の63億円となりました。

- 特別利益・・・関係会社株式売却益 12億円、投資有価証券売却益 2億円
- 特別損失・・・製品自主回収関連損失 14億円、減損損失 9億円 等

(単位:百万円)

■ 当期純利益      ◆ 売上高当期純利益率



(単位:百万円)

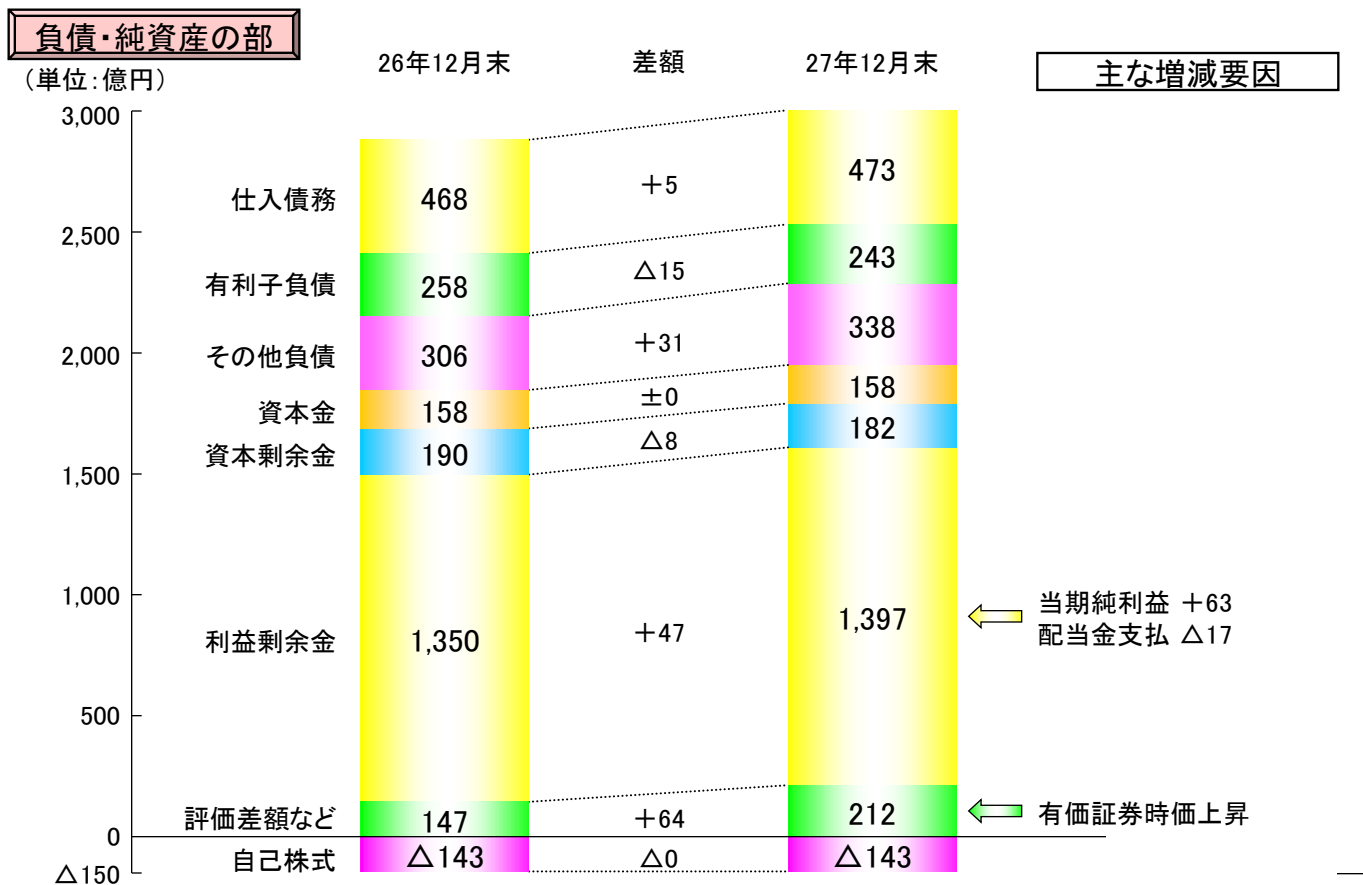
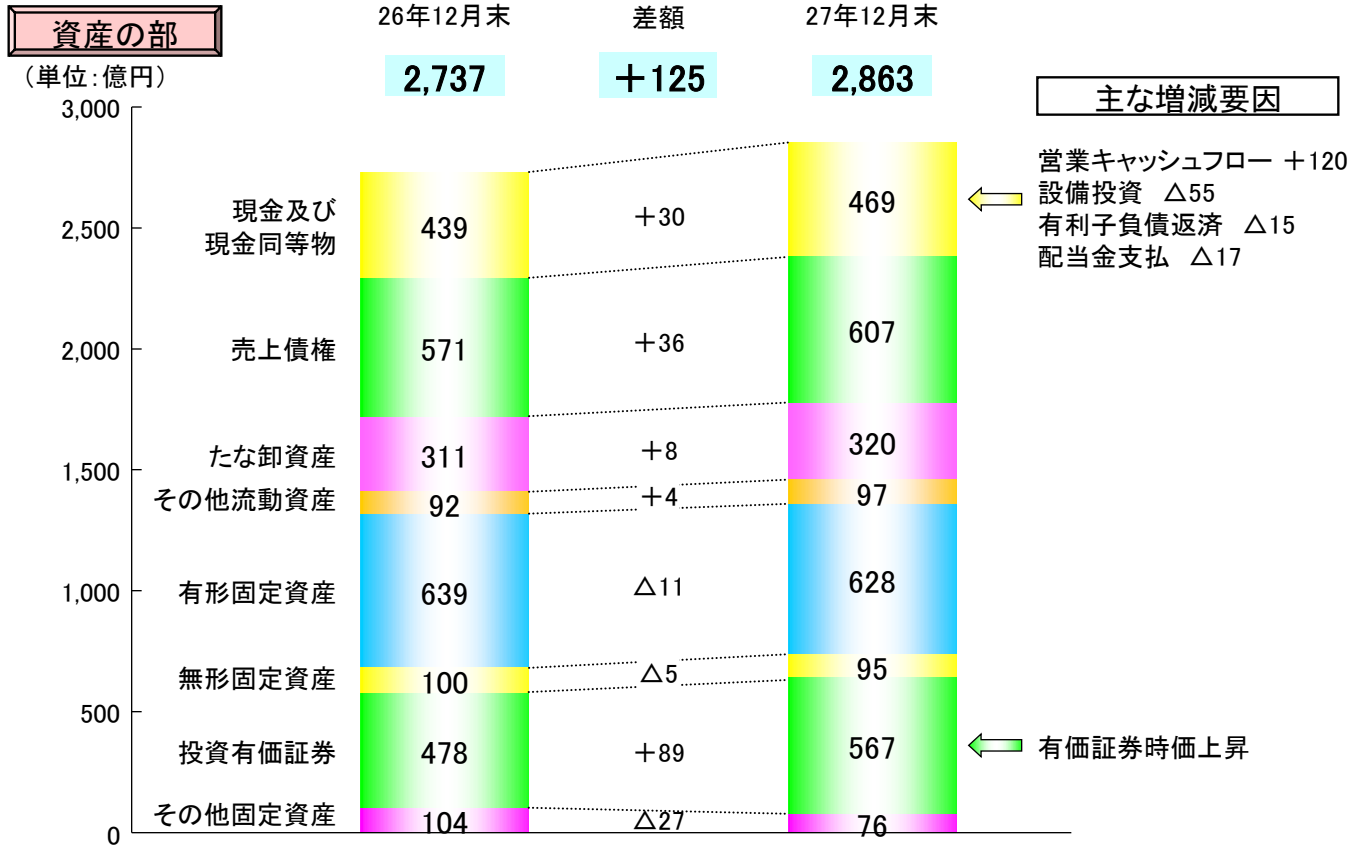
	23年12月期	24年12月期	25年12月期	26年12月期	27年12月期	前年差額 (前年率差)	増減率
経常利益 (率)	4,098 (1.6%)	6,142 (2.2%)	8,276 (2.9%)	9,643 (3.3%)	11,880 (3.9%)	+2,237 (+0.6p)	+23.2%
特別損益	△7,888	△880	△455	△2,015	△1,069	+946	—
特別利益	+1,187	+2,063	+1,380	+1,408	+1,450	+42	+3.0%
特別損失	△9,075	△2,943	△1,835	△3,423	△2,519	+904	—
税金等調整前当期純利益 (率)	△3,789 (△1.5%)	5,262 (1.9%)	7,821 (2.7%)	7,628 (2.6%)	10,812 (3.6%)	+3,184 (+1.0p)	+41.7%
法人税等	1,671	2,834	3,017	2,563	4,500	+1,937	+75.6%
当期純利益 (率)	△5,460 (△2.1%)	2,428 (0.9%)	4,804 (1.7%)	5,065 (1.7%)	6,312 (2.1%)	+1,247 (+0.3p)	+24.6%



## 2. 貸借対照表の状況

総資産は、前年同期末より125億円増加し、2,863億円となりました。

※億円未満を切り捨てて表記しています。そのため合計が一致しない場合があります。



### 3. キャッシュフロー・設備投資の状況

#### <キャッシュフロー>

営業キャッシュフローは120億円、投資キャッシュフローは△31億円となり、フリーキャッシュフロー(※)は88億円となりました。  
また、財務キャッシュフローは△56億円となりました。

以上の結果、当期末の現金及び現金同等物は、期首から30億円増加し、469億円となりました。

(※)フリーキャッシュフロー＝営業キャッシュフロー＋投資キャッシュフロー

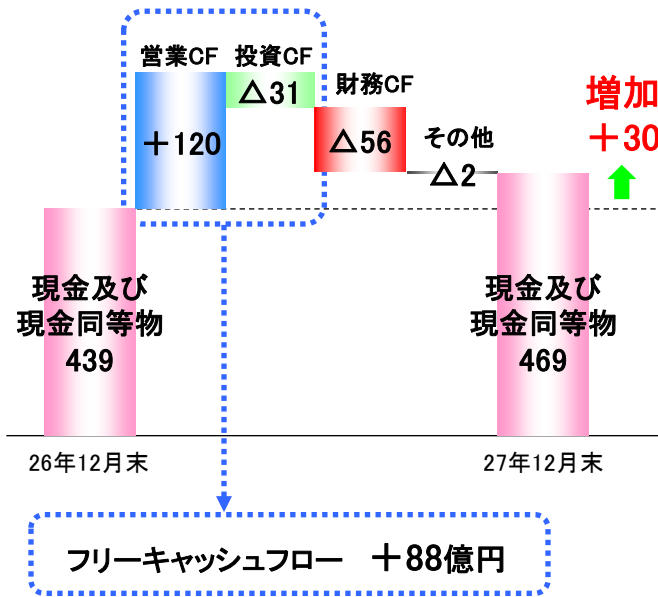
#### <設備投資>

設備投資は、55億円を実施しました。

※億円未満を切り捨てて表記しています。そのため合計が一致しない場合があります。

#### □ 現金及び現金同等物の増減内訳 27年12月期 <1～12月>

(単位:億円)



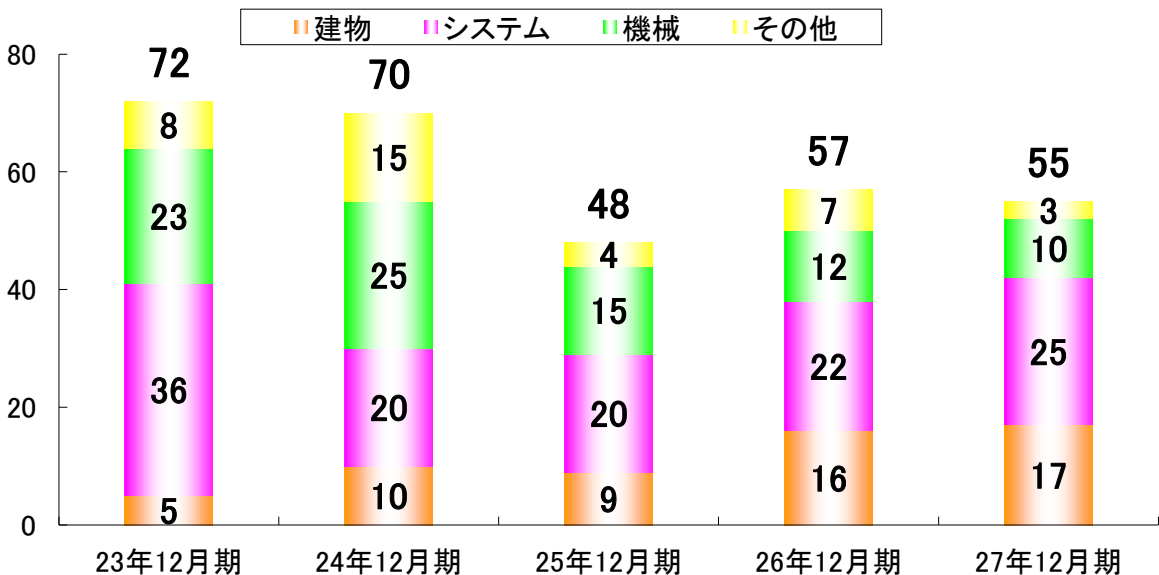
#### □ キャッシュ・フロー計算書 27年12月期 <1～12月>

(単位:億円)

◆営業キャッシュフロー	+120
税金等調整前当期純利益	+108
減価償却費	+71
減損損失	+9
たな卸資産の増減	△10
債権債務の増減	△31
法人税等の支払	△45
その他	+18
◆投資キャッシュフロー	△31
関係会社株式売却収入	+16
設備投資	△55
その他	+7
◆財務キャッシュフロー	△56
配当金の支払	△17
借入金の増減	△15
リース債務の返済	△11
その他	△11

#### □ 設備投資の推移

(単位:億円)



## 4. 株主還元

### □配当について

#### ・1株当たり配当金

通期: 17円50銭 (中間配当金 7円50銭、期末配当金 10円<予定>)

#### ・利益配分に関する基本方針及び当期・次期の配当

当社は、中長期にわたる企業価値の最大化に向けて、持続的な事業の成長に努め、維持することで、株主への利益配当額の向上に取り組んでいきます。株主還元の目標として、平成30年12月期までに配当性向25%を目指します。

当期の1株当たり配当金は、当初の予定の15円に加えて、創業110周年記念配当2円50銭を実施し、17円50銭(中間配当金7円50銭、期末配当金10円)とする予定です。

次期は、1株当たり15円の配当を予定しており、配当性向は21.4%となる見込みです。

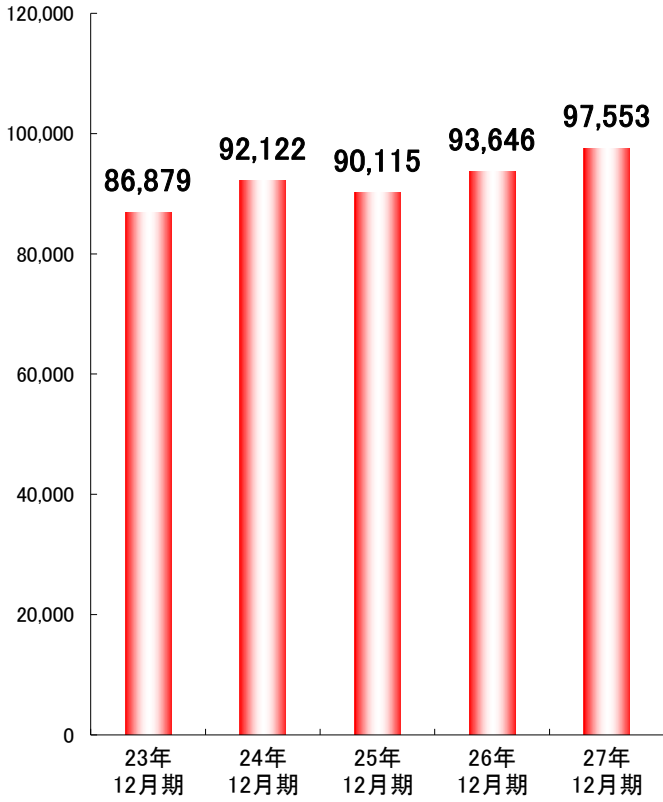
# 5. 事業セグメントの損益状況

## ◆5-1 ステーションナリー関連事業

売上高は、国内、海外事業とも伸長し、前年同期比4.2%増の975億円となりました。  
 営業利益は、国内事業では、円安の進行に伴う原材料価格及び仕入商品価格の高騰に対し、価格改定の浸透に努めたことに加え、海外事業の改善により、前年同期比5.1%増の46億円となりました。

### 売上高

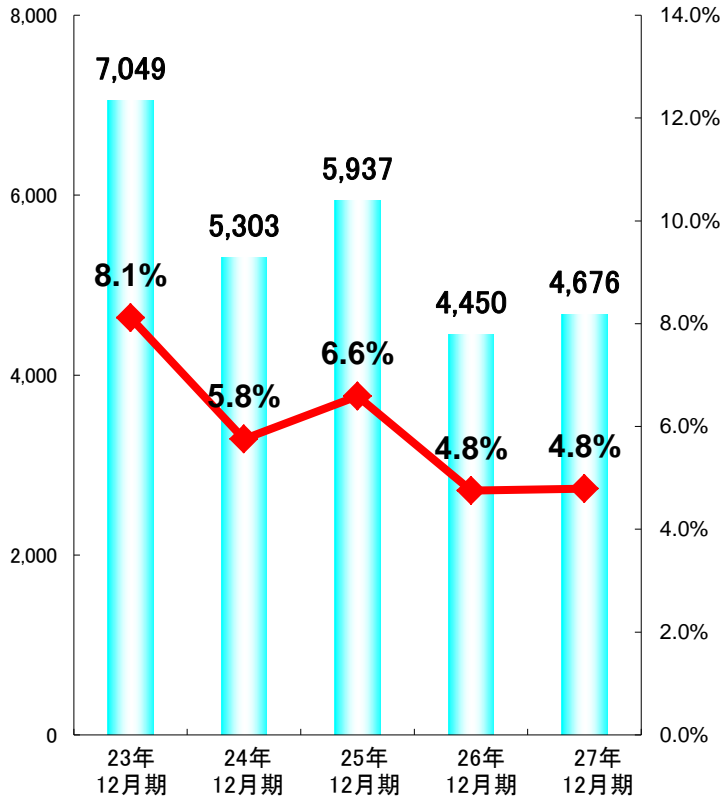
(単位:百万円)



### 営業利益

(単位:百万円)

◆売上高営業利益率



(単位:百万円)

	23年12月期	24年12月期	25年12月期	26年12月期	27年12月期	前年差額 (前年率差)	増減率
売上高	86,879	92,122	90,115	93,646	97,553	+3,907	+4.2%
営業利益 (率)	7,049 (8.1%)	5,303 (5.8%)	5,937 (6.6%)	4,450 (4.8%)	4,676 (4.8%)	+226 (+0.0p)	+5.1%

※24年12月期より「ステーションナリー関連事業」「ファニチャー関連事業」「通販・小売関連事業」の3セグメントにて開示しております。そのため、23年12月期の実績値は新セグメントに置き換えております。  
 ※売上高は、外部売上高と内部売上高を合算した数値を記載しております。

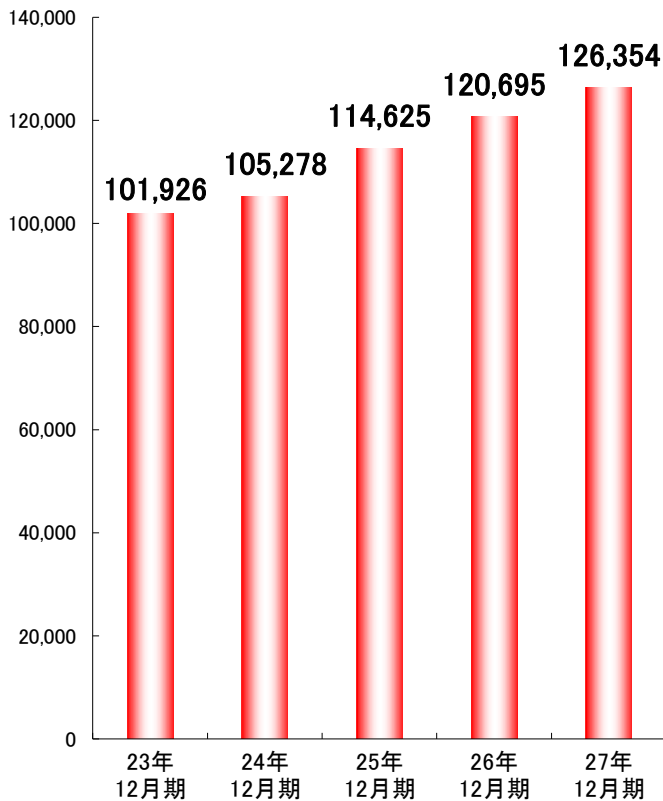
## 5. 事業セグメントの損益状況

### ◆5-2 ファニチャー関連事業

売上高は、国内事業の牽引により、前年同期比4.7%増の1,263億円となりました。  
 営業利益は、国内事業の増収による売上総利益の増加並びに価格改定及び工場収支の改善等に伴う売上総利益率の向上により、前年同期比53.4%増の63億円となりました。

### 売上高

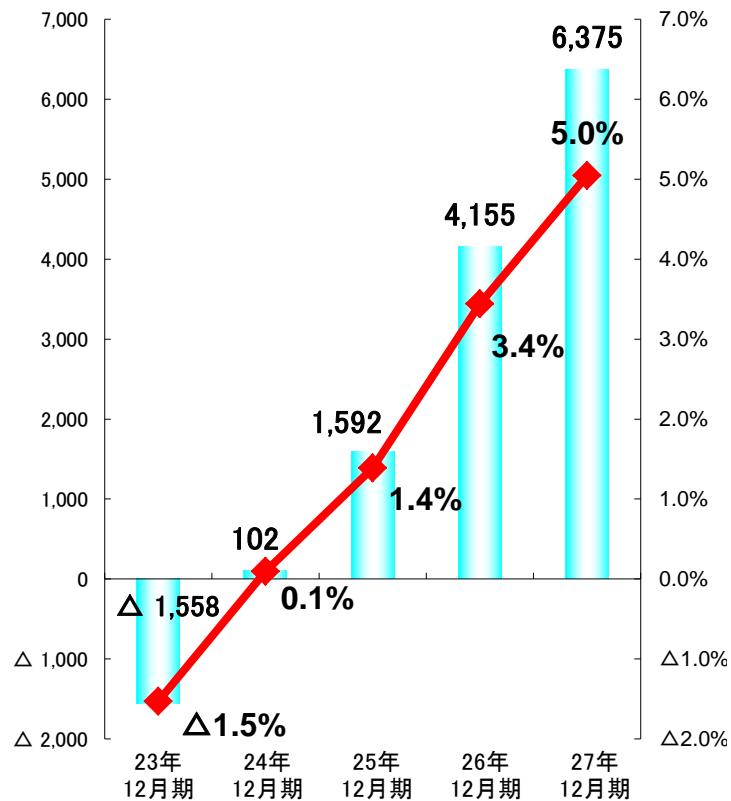
(単位:百万円)



### 営業利益

(単位:百万円)

◆売上高営業利益率



(単位:百万円)

	23年12月期	24年12月期	25年12月期	26年12月期	27年12月期	前年差額 (前年率差)	増減率
売上高	101,926	105,278	114,625	120,695	126,354	+5,659	+4.7%
営業利益 (率)	△ 1,558 (△ 1.5%)	102 (0.1%)	1,592 (1.4%)	4,155 (3.4%)	6,375 (5.0%)	+2,220 (+1.6p)	+53.4%

※24年12月期より「ステーションナリ関連事業」「ファニチャー関連事業」「通販・小売関連事業」の3セグメントにて開示しております。そのため、23年12月期の実績値は新セグメントに置き換えております。

※売上高は、外部売上高と内部売上高を合算した数値を記載しております。

# 5. 事業セグメントの損益状況

## ◆5-3 通販・小売関連事業

売上高は、LmD株式会社の連結除外(※)による減収があったものの、カウネット及びアクタスの増収により、前年同期比2.3%増の1,096億円となりました。

営業利益は、カウネットにおける物流費の上昇やアクタスの新規出店に伴う先行費用の増加等がありましたが、増収に伴う売上総利益の増加により、前年同期比16.2%増の24億円となりました。

(※)平成26年9月1日に当社の連結子会社であった「ザ・コンランショップ」の運営会社であるLmD株式会社の全保有株式を譲渡しました。

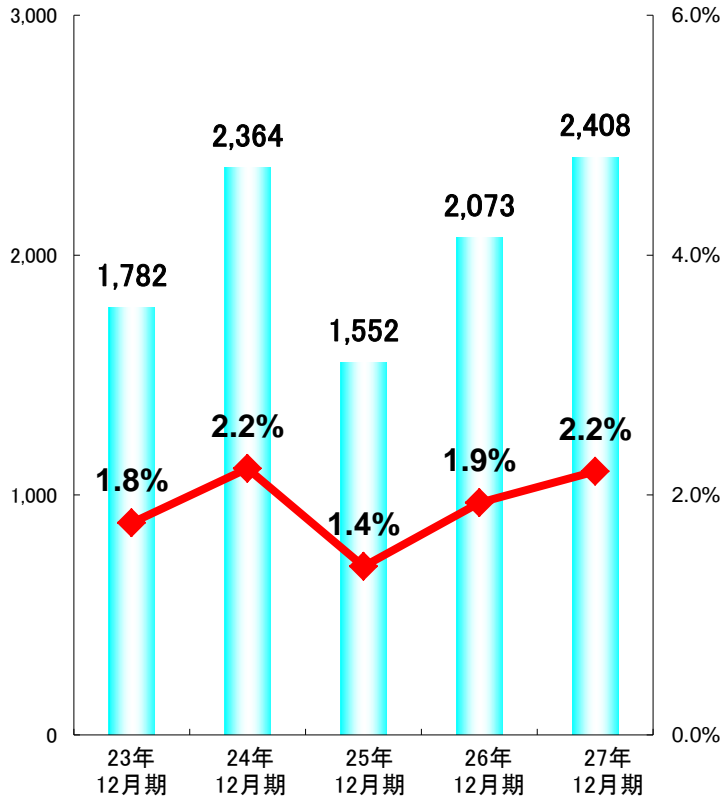
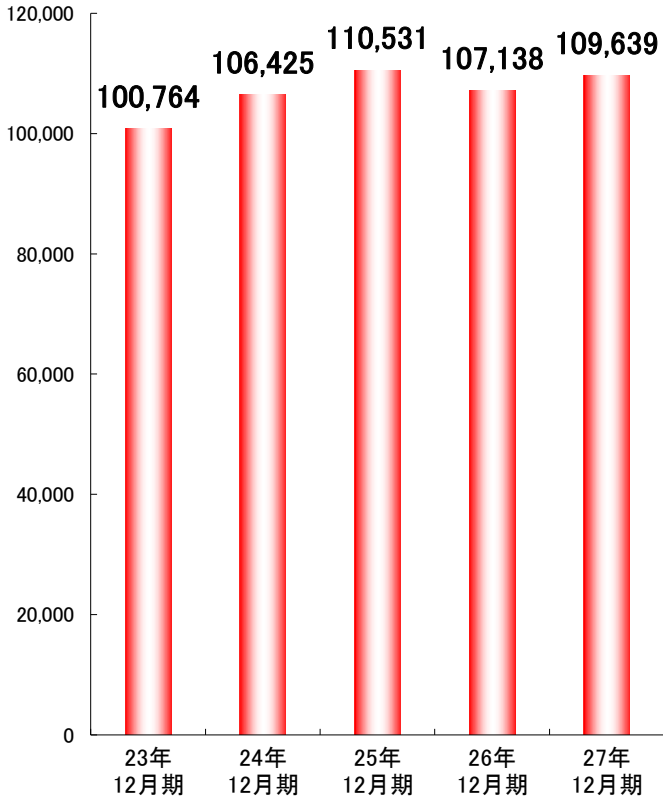
### 売上高

### 営業利益

(単位:百万円)

(単位:百万円)

◆売上高営業利益率



(単位:百万円)

	23年12月期	24年12月期	25年12月期	26年12月期	27年12月期	前年差額 (前年率差)	増減率
売上高	100,764	106,425	110,531	107,138	109,639	+2,501	+2.3%
営業利益 (率)	1,782 (1.8%)	2,364 (2.2%)	1,552 (1.4%)	2,073 (1.9%)	2,408 (2.2%)	+335 (+0.3p)	+16.2%

※24年12月期より「ステーションナリ関連事業」「ファニチャー関連事業」「通販・小売関連事業」の3セグメントにて開示しております。そのため、23年12月期の実績値は新セグメントに置き換えております。

※売上高は、外部売上高と内部売上高を合算した数値を記載しております。

## 6. 28年12月期の見通し

### ◆6-1 連結業績の見通しについて

次期の業績は、売上高3,100億円、営業利益120億円、経常利益128億円、親会社株主に帰属する当期純利益83億円を見込んでいます。

#### 第2四半期累計

(単位:百万円)

	27年12月期 第2四半期累計 実績 (6ヶ月)	28年12月期 第2四半期累計 予想 (6ヶ月)	前年差額	前年率差	増減率
売上高	161,249	164,400	+3,151		+2.0%
ステーションナリー	52,947	54,200	+1,253		+2.4%
ファニチャー	69,019	69,400	+381		+0.6%
通販・小売	54,594	56,600	+2,006		+3.7%
調整額	△ 15,311	△ 15,800	△ 489		-
営業利益(率)	8,882 (5.5%)	9,400 (5.7%)	+518	+0.2p	+5.8%
ステーションナリー(率)	3,506 (6.6%)	4,050 (7.5%)	+544	+0.9p	+15.5%
ファニチャー(率)	5,264 (7.6%)	6,350 (9.1%)	+1,086	+1.5p	+20.6%
通販・小売(率)	1,390 (2.5%)	1,600 (2.8%)	+210	+0.3p	+15.1%
調整額	△ 1,278	△ 2,600	△ 1,322		-
経常利益(率)	9,814 (6.1%)	9,900 (6.0%)	+86	△0.1p	+0.9%
親会社株主に帰属する 四半期純利益(率)	6,037 (3.7%)	6,400 (3.9%)	+363	+0.1p	+6.0%

#### 通期

(単位:百万円)

	27年12月期 通期 実績 (12ヶ月)	28年12月期 通期 予想 (12ヶ月)	前年差額	前年率差	増減率
売上高	304,276	310,000	+5,724		+1.9%
ステーションナリー	97,553	99,700	+2,147		+2.2%
ファニチャー	126,354	127,800	+1,446		+1.1%
通販・小売	109,639	112,700	+3,061		+2.8%
調整額	△ 29,269	△ 30,200	△ 931		-
営業利益(率)	11,102 (3.6%)	12,000 (3.9%)	+898	+0.2p	+8.1%
ステーションナリー(率)	4,676 (4.8%)	5,600 (5.6%)	+924	+0.8p	+19.7%
ファニチャー(率)	6,375 (5.0%)	8,900 (7.0%)	+2,525	+1.9p	+39.6%
通販・小売(率)	2,408 (2.2%)	2,500 (2.2%)	+92	+0.0p	+3.8%
調整額	△ 2,358	△ 5,000	△ 2,642		-
経常利益(率)	11,880 (3.9%)	12,800 (4.1%)	+920	+0.2p	+7.7%
親会社株主に帰属する 当期純利益(率)	6,312 (2.1%)	8,300 (2.7%)	+1,988	+0.6p	+31.5%

※当社は、平成27年10月1日付の連結子会社2社との合併に伴い、純粋持株会社から事業会社に移行したため、平成28年12月期より、連結子会社に対するグループ経営運営料の徴収を廃止します。これにより、各事業セグメントの営業費用は、前期に比べて、ステーションナリー関連事業で6億円(第2四半期累計では3億円)、ファニチャー関連事業で9億円(第2四半期累計では5億円)、通販・小売関連事業で6億円(第2四半期累計では3億円)それぞれ減少を見込んでいます。

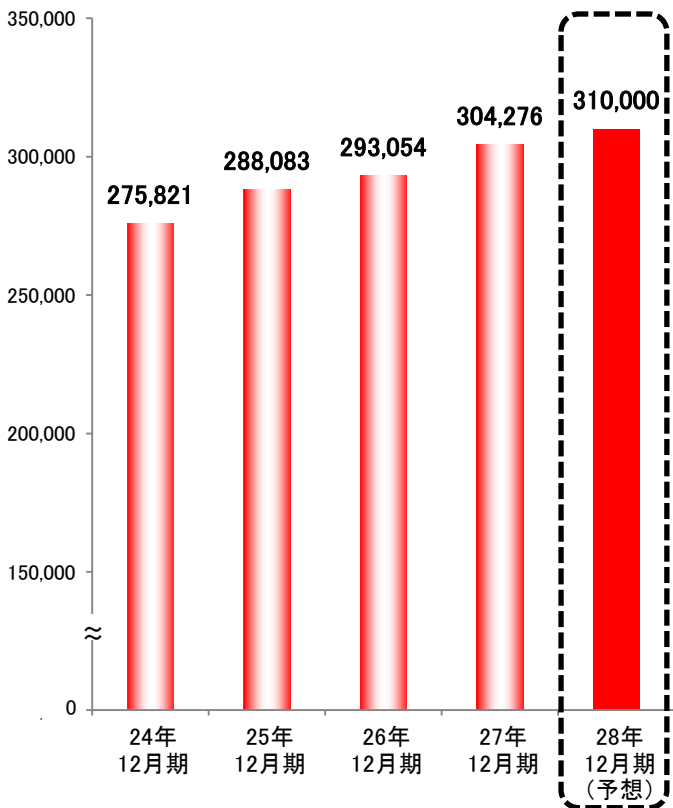
※この資料に記述されている予想数値は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

## 6. 28年12月期の見通し (ご参考)

### ◆6-2 連結業績の推移

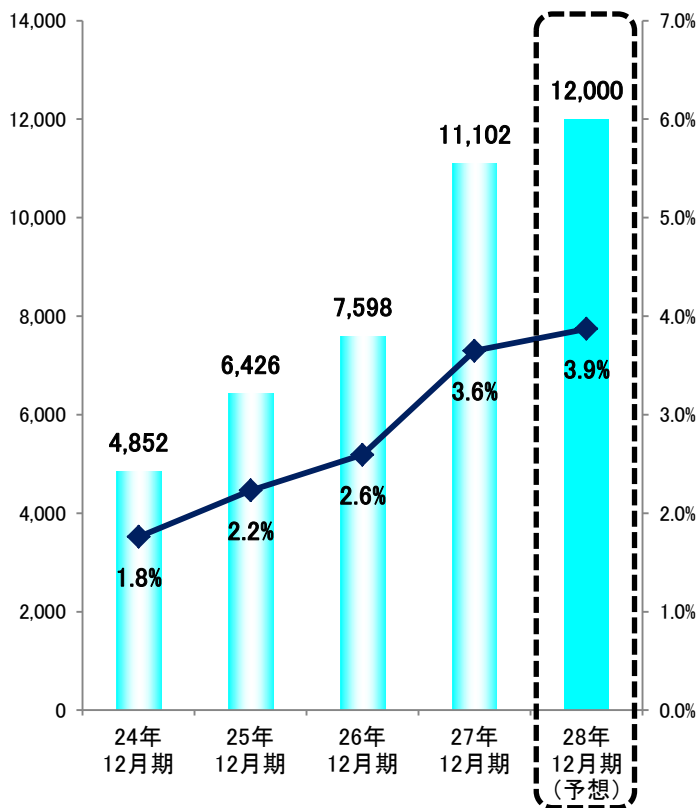
#### ■売上高

(単位:百万円)



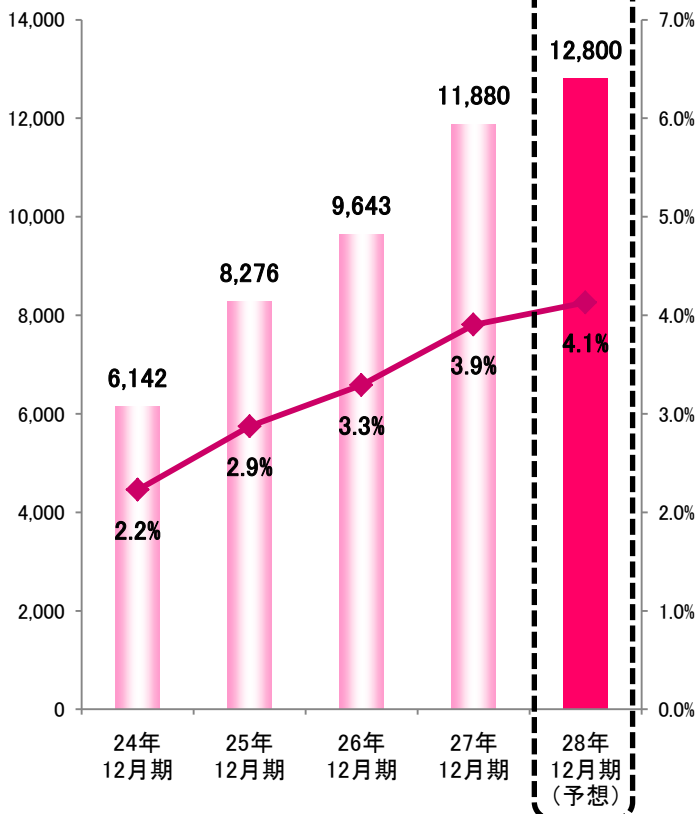
#### ■営業利益 売上高営業利益率

(単位:百万円)



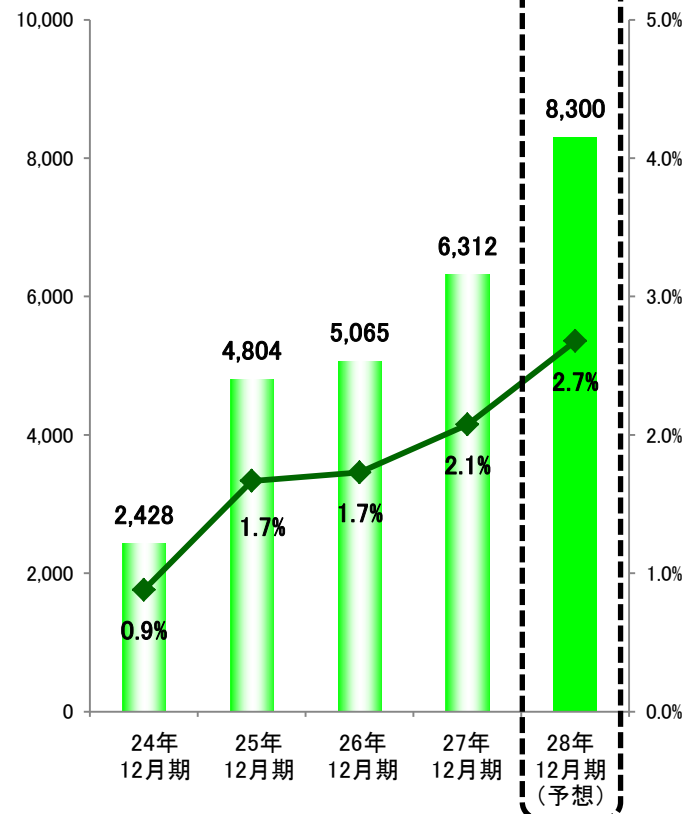
#### ■経常利益 売上高経常利益率

(単位:百万円)



#### ■親会社株主に帰属する当期純利益 売上高当期純利益率

(単位:百万円)





# 6. 28年12月期の見通し (ご参考)

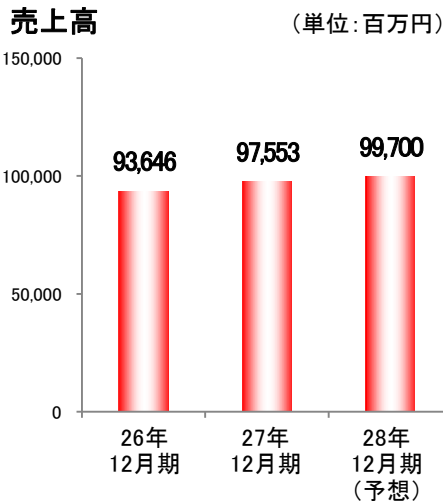
## ◆6-3 セグメント別業績の推移

(単位: 百万円)

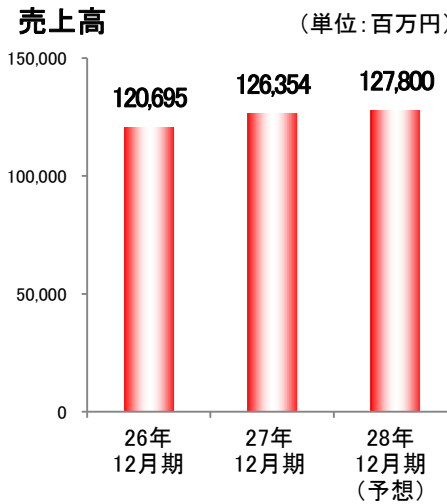
	26年12月期	27年12月期	28年12月期 (予想)	前年差額 (前年率差)	増減率
<b>ステーションナリー</b>					
売上高	93,646	97,553	99,700	+2,147	+2.2%
営業利益 (率)	4,450 (4.8%)	4,676 (4.8%)	5,600 (5.6%)	+924 (+0.8p)	+19.7%
<b>ファニチャー</b>					
売上高	120,695	126,354	127,800	+1,446	+1.1%
営業利益 (率)	4,155 (3.4%)	6,375 (5.0%)	8,900 (7.0%)	+2,525 (+1.9p)	+39.6%
<b>通販・小売</b>					
売上高	107,138	109,639	112,700	+3,061	+2.8%
営業利益 (率)	2,073 (1.9%)	2,408 (2.2%)	2,500 (2.2%)	+92 (+0.0p)	+3.8%

※当社は、平成27年10月1日付の連結子会社2社との合併に伴い、純粋持株会社から事業会社に移行したため、平成28年12月期より、連結子会社に対するグループ経営運営料の徴収を廃止します。これにより、各事業セグメントの営業費用は、前期に比べて、ステーションナリー関連事業で6億円、ファニチャー関連事業で9億円、通販・小売関連事業で6億円それぞれ減少を見込んでいます。

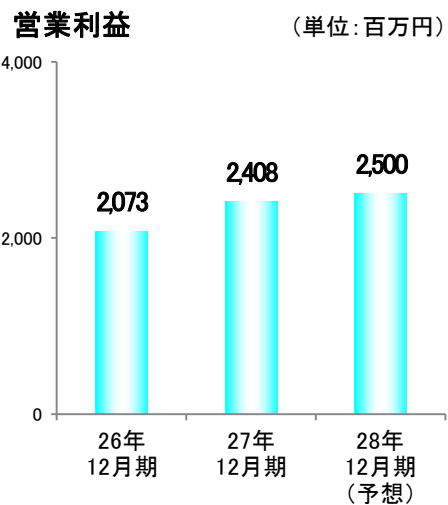
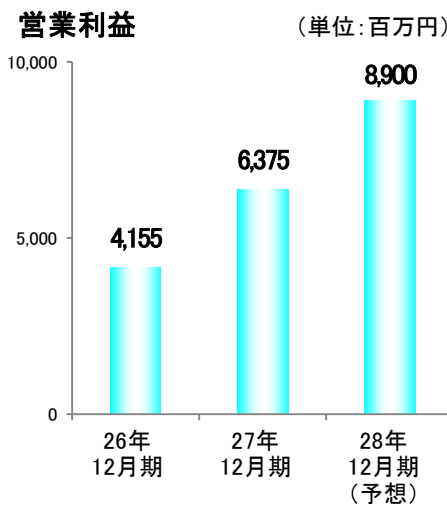
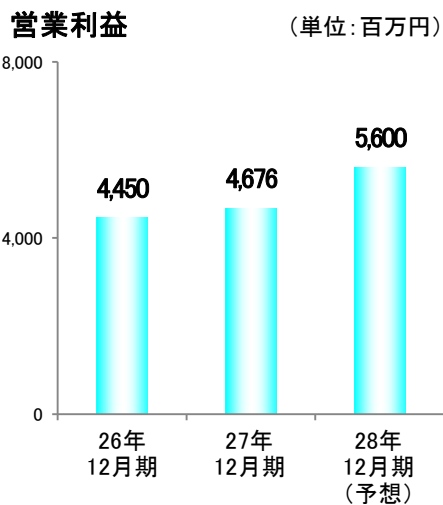
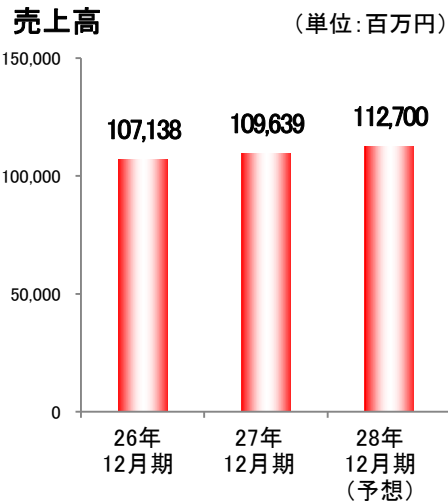
### <ステーションナリー関連事業>



### <ファニチャー関連事業>



### <通販・小売関連事業>



### ～テーマは『be- 個性が活きる、自分らしく働ける場所。』～ 「2016コクヨ新製品フェア」開催

当社は、12月7日・8日の2日間、東京ショールームにおいて、ファニチャー商材を中心にした新製品を体感できる「2016 コクヨ新製品フェア」を開催しました。

今回のテーマは「be- 個性が活きる、自分らしく働ける場所。」。

オフィスは、ただ働くだけの場所ではなく、多様な個性を持った人々が集まり、働く人が気持ち良く過ごせる場所でありたい、というメッセージを込めています。高齢化や労働人口の減少により、介護や育児をしながら働く人など、一人ひとりの生活環境や価値観を受け入れることは、企業にとって大きな課題となっています。

当社は、Life & Work Style Companyとして、これからのオフィス作りのあり方を考え、多様化する個人の生き方を尊重した、新しいワークスタイルを提案しています。

#### —新製品一例—



オフィスチェア「Duora(デュオラ)」



木製ロビーチェア「Refina(レフィナ)」



ガラスパーティション「プランナーウォール21 LIM(リム)」

## 7. 主なトピックス

### ～ココヨデザインアワード受賞作品～ 気持ちを伝える「和ごむ」を発売

当社は、使う人の視点で優れた商品デザインを広く一般ユーザーから集めて、商品化をめざすコンペティション「ココヨデザインアワード」で受賞した作品の中から、「ゴムバンド<和ごむ>」を商品化し、発売しました。

「和ごむ」は、何度あっても良いという意味を持つ、水引の蝶結びをモチーフにしたゴムバンドで、輪ゴムの“とめる”機能に、ちょっと気の利いた“気持ち”をプラスできるアイテムです。色は、昔から縁起が良いとされる「紅(あか)」「桃(もも)」「白藍(しらあい)」「萌木(もえぎ)」の4色をご用意しました。

ちょっとしたお礼やプレゼントに添えてお使いいただけます。



「和ごむ」(左から、紅色、桃色、白藍色、萌木色)



「和ごむ」の使用例

### 『アクタス・EXPOCITY店』をオープン

株式会社アクタスは、11月19日に開業した“ららぽーとEXPOCITY(大阪府吹田市)”に『アクタス・EXPOCITY店』をオープンしました。

1970年大阪万博、当時の世界中の先端技術が一堂に会し、それを目にした多くの人々が、技術の進歩による豊かな暮らしへの夢を描き、その後の発展の原動力となりました。こうした歴史的な背景を持つ、万博跡地にオープンするEXPOCITY店のコンセプトは『STYLE PLATFORM』。かつてこの地に世界の技術と文化が集い、メッセージを発する文化のプラットフォームとなったように、インテリアをはじめ、ファッションやフードなど、さまざまなエッセンスでつくられる“美しい暮らしかた(スタイル)”を提案するプラットフォームになるという思いを表現するショップです。

なお、株式会社アクタスは、平成27年に、「アクタス・EXPOCITY店」の他、「アクタス・富士見店」(埼玉)、「アクタスコンテナ・酒々井店」(千葉)、「アクタス・二子玉川店」(東京)、「スローハウス・二子玉川」(東京)、「アクタス・立川店」(東京)の合計6店舗をオープンしました。



アクタス・EXPOCITY店